

沖縄平和学習映像教材 第1編 沖縄戦

発展探究ワーク 沖縄戦を考える

指導案・生徒用ワークシート

発展課題

発展探究ワーク1:沖縄戦を考える

【発展①】あなたならどうするのか？

これまでの学習を踏まえて考えてみましょう。2つの選択肢からどちらかを選び、なぜそう判断したのか？その判断に迷いや葛藤はないか？を言葉にしてみましょう。

「答えを選べない」と感じた質問はどれでしたか？なぜ、このような選択を迫られるのでしょうか？

もしかしたら、10の質問のような場面は現在の皆さんの身の回りでも、形を変えて起きていることかもしれません。

【質問】

住民の立場

1. 軍からここに残れと言われたら、軍の指示に従う/安全のために自分たちで判断する
2. 砲撃の音が近づいてきたとき、その場にとどまる/危険を覚悟して別の場所に移動する
3. 歩くことができない人を見たら、自分や家族の避難を優先する/負担が大きいが負傷者と一緒に行動する
4. 避難の方向を決めるとき、日本軍と南部に移動する/日本軍とは逆の北部に移動する

日本兵の立場

5. 部隊のガマに住民が避難してきた、作戦のため住民を入れない/住民を入れて別の拠点を探す
6. 兵力不足の中で男子学徒に、作戦のために危険な任務を命じる/命じない

アメリカ兵の立場

7. ガマに投降を呼びかけたが出てこない、自分の安全のために攻撃する/上官が命じたので攻撃する
8. 避難民に遭遇した、日本兵がいるかもしれないので直ちに攻撃する/確認のために英語だが呼びかける

沖縄戦の最高司令の立場

9. 4月1日米軍の総攻撃で、大打撃を与えるため上陸時に総攻撃する/地下陣地を配置して持久戦に持ち込む
10. 6月23日沖縄戦の最高司令官として、沖縄住民の犠牲の実態を伝える/米軍を食い止めた成果を伝える

第 1 編 沖縄戦

発展探究ワーク 1:沖縄戦を考える

学習指導案 中学生・高校生対象 25 分 A4 2 枚

住民・日本兵・アメリカ兵・最高司令官の立場から、選択を迫られた背景と葛藤を考える。10 の場面を見渡し、1 問を深く考え、現地で確かめたい問いにつなげる。

1 本時の目標と準備

①当時の情報・命令・生活条件を手がかりに選択の理由を考える。②異なる立場の人への影響や、選びにくさを言葉にする。③対話を通して見方を広げ、確認したい問いを持つ。

準備:提示スライド、ワークシート、既習資料、筆記用具。映像視聴と沖縄戦の経過・避難・壕の生活の説明は別に確保する。教員が 1 問を指定するか、4 人グループで 1 問を選ぶ。

2 本時の展開 25 分

時間	学習活動	教員の働きかけ・指導上の留意点	学習の狙い・評価
5 分	場面の確認と個人メモ 10 問を見渡し、取り組む 1 問を決める。立場・選択 肢・困る点を確認する。	二択は考える入口と伝える。「選べない」「条件による」も認める。下記のヒントから 1 つ選び、資料と照らす。 発問例「その人は何を知り、何を知らなかったでしょう。何を守ろうとしていたでしょう」	狙い:当時の条件から考える。 評価:立場と判断の手がかりを示しているか。
8 分	4 人で対話 一人約 1 分で考えと理由 を伝える。残り 4 分で異なる見方や選びにくさを話し合う。	結論をそろえず、選択によって誰にどんな影響があるかを考えさせる。順に発言機会をつくる。 発問例「その選択で助かる人、危険が増す人は誰ですか。別の立場ならどう見えますか」	狙い:背景と葛藤を多面的に考える。 評価:理由を添え、自分がない見方を聞いているか。
7 分	各自で文章化 自分の判断、理由、別の選択の理由を整理する。選べない場合はその理由を書く。	ヒントを答えとして写さず、資料の根拠を添えて書かせる。事実と推察を区別する。 発問例「どの資料が根拠ですか。どんな条件が変わると判断が変わりそうですか」	狙い:判断と根拠・葛藤をつなぐ。 評価:当時の条件を踏まえ、断定を避けているか。
5 分	再共有と現地の問い 一人約 1 分で深まった考えを共有。残り 1 分で問いと確認方法を書く。	加えた視点や変化に注目させる。「なぜ」「どのように」で確認できる問いをつくる。 発問例「何を見たり、どんな資料や証言を確かめたりすると、その疑問に近づけますか」	狙い:考えを更新し現地へつなぐ。 評価:新たな見方と問い・方法があるか。

指導上の留意点 3 ポイント

- ① 現在の知識で当時の人を責めない。当時得られた情報や選択の制約を考える。
- ② 二択を正解・不正解にしない。選べない理由、条件による違い、別の可能性を認める。
- ③ 戦争の場面への参加を強要しない。想像がづらい場合は資料を分析する立場で取り組める。

到達のイメージ

選択の理由と葛藤を当時の条件に結びつけ、他者から得た視点と現地で確かめたい問いを示す。

沖縄戦の選択と葛藤を考える授業の支援

3 課題と発問のヒント

10 問のうち 1 問を深く扱う。選択肢は仮想の判断場面であり、史実上の人物が自由に選べたことを意味しない。判断の妥当性を多数決で決めない。

住民の立場 問 1～4

軍の指示、安全な移動、避難が難しい人との行動、南部・北部への移動を考える。ヒント：得られた情報／家族や同行者／移動の体力／避難先の状況。発問「危険を知る情報はあったでしょうか。自分で決められる範囲はどこまででしょう」

日本兵の立場 問 5・6

部隊の壕に住民が来た場面と、兵力不足の中で男子学徒に危険な任務を命じる場面を考える。ヒント：命令・任務／住民や学徒の命／食料・空間／命令への抵抗の難しさ。発問「作戦の目的と人命の間に、どんな葛藤がありますか」

アメリカ兵の立場 問 7・8

投降を呼びかけても出てこない壕と、避難民への遭遇を考える。ヒント：相手について分からないこと／自分と仲間の安全／住民の恐怖／確認する方法。発問「双方は相手をどう見ていた可能性がありますか」

最高司令官の立場 問 9・10

上陸時の攻撃が持久戦か、住民の犠牲が軍事的成果かという場面を考える。ヒント：作戦目的／戦闘の長期化／住民への影響／報告で伝わる・伝わらないこと。発問「その判断や報告で、誰の経験が見えにくくなるでしょう」

ヒントの使い方

①「情報・命令・安全・家族・資源・相手への理解」から 1 つ選ぶ。②その視点に関係する資料の言葉や場面を探す。③「～という条件なら、～と考える」と自分の言葉でまとめる。資料で確認できない点は『まだ分からないこと』に残す。

4 学級に応じた進め方

プラン	進め方と時間配分 合計 25 分	特徴と支援のポイント
1 協働型	場面確認・個人メモ 5 分 → 対話 8 分 各自で文章化 7 分 → 再共有・問い 5 分	導入期向け。友達の見方を手がかりにする。全員が話し、各自で書く。
2 併用型	場面確認 5 分 → 個人で考える 7 分 グループ共有 8 分 → 加筆・問い 5 分	最初の判断を持ってから比較する。新しい視点を加える。
3 自立型	場面確認 5 分 → 個人で文章化 7 分 文章を比較 8 分 → 書き直し・問い 5 分	探究に慣れた学級向け。初稿を残し、理由や条件の変化を記録する。

どのプランも選んだ 1 問に焦点を当てる。1 枚目はプラン 1 の例。

5 評価と現地学習への接続

見取る点：①資料と当時の条件を根拠にする。②別の立場や選択の理由・葛藤を考える。③共有後の加筆と問い・確認方法がある。選択した答え、感情の強さ、勇敢さは評価しない。

現地では地図・展示・証言で、避難経路、壕の状況、命令や情報の届き方を確かめる。語り手に仮想場面への回答を求めず、話せる範囲を尊重する。事後は推察を見直し、残る問いを記す。

6 資料の扱い

出典：提供スライド「発展探究ワーク 1：沖縄戦を考える」。問 9・10 の日付や選択肢は判断場面の設定として扱い、実際の作戦・報告の事実は映像や関連資料で確認する。

沖縄平和学習映像教材 第1編 沖縄戦

発展探究ワーク1:沖縄戦を考える

年 組 番 名前

日付

探究時間 25 分。10 の場面を見渡し、先生の指定またはグループで選んだ 1 問を深く考えよう。正解を選ぶことが目的ではありません。選べない場合も、理由を考えよう。

1 探究する場面を確認しよう

選んだ問: 番 立場:

問い: 選んだ問の場面・問が生まれている状況を考えて短く書こう。

2 自分ならどう判断するか、理由とともに考えよう

☐ A を選ぶ ☐ B を選ぶ ☐ 選べない ☐ 条件による

スライド【質問】の「／」の左側(黒字)を A、右側(赤字)を B とします。

例: A(左側): 軍からここに残れと言われたら、軍の指示に従う

B(右側): 安全のために自分たちで判断する

ヒント: 情報／命令／安全／家族／食料・水・空間／相手への理解から 1 つ選び、資料と照らそう。当時分かっていたことと、今の自分が知っていることを分けよう。

自分の判断と理由(根拠にした資料・場面も書く)

自分の選択とは異なる立場で考えてみよう。別の選択をする人の理由／選べない理由や迷い／判断が変わる条件

3 グループで共有し、自分の考えを深めよう

自分にはなかった見方・共有で加えたことや変わったこと

問い: この場面で、人々がそのような選択を迫られた背景は何だろう。

ヒント: 自由に決められたか、情報は十分だったか、何を失う恐れがあったか。

4 現地で確かめたい問いをつくろう

「なぜ」「どのように」で問いを書き、確認する場所・資料・相手を考えよう。

確認 ☐ 根拠を示した ☐ 事実と推察を分けた ☐ 別の立場や葛藤を考えた

出典: 提示スライド「発展探究ワーク1: 沖縄戦を考える」。判断場面は史実そのものと区別する。